

令和7年度 第1回 学校運営協議会 加納の未来を拓く会 議事録【概要版】

司会・記録 教頭 河村

日時：令和7年5月30日（金）9：30～11：00

出席者（敬称略）：川田 政美 加納東自治会連合会 会長

高木 裕 加納東公民館長

多治見美幸 加納東青少年育成市民会議 会長

棚原 美歌 加納東主任児童委員

大寶 祥子 お田植踊り指導者

小森 龍二 日本プラネタリウム協議会監事 岐阜天文台評議員
元岐阜市科学館館長

大竹 克佳 加納小学校 PTA 会長

村山 邦博 加納中学校 校長

藤井 佐由美 加納幼稚園 園長

岩佐 優 加納小学校 校長

河村 泰代 加納小学校 教頭

次第：

1 校長挨拶

2 委嘱状交付

3 会長選出 会長 川田 政美 様

4 学習参観

5 協議 （議長 川田会長）

（1）本年度の学校経営について（校長）

【意見および感想等】

多治見委員：

- ・小学生の子どもたちはエネルギーで、勢いが感じられる。
- ・整理された環境は、学習に集中するために有効である。
- ・加納中学校・小学校は、設備が整っている。
- ・加納小学校では対話型の授業が行われ、仲間の意見を尊重し合う姿勢がある。
- ・見学を通じて、後輩たちの成長を見て嬉しく思った

棚原委員：

- ・1年生の子どもたちは、学校が始まって3か月以内にもかかわらず、授業にしっかりとなじんでいる。
- ・タブレット授業にはまだ違和感があるが、子どもたちはしっかり活用し、6年間で使いこなしてほしいと感じた。

- ・6年生の授業では、自分の考えを本で調べて発表する姿に感心した。
- ・学校の経営方針が新しく洗練されており、先生方もその目標に向かって一致団結していると感じた。
- ・自発的な考えや行動が、子ども・保護者・先生に共通しており、学校の目標に向かって協力していると感じた。

大寶委員：

- ・一年生が規律正しく座り、授業に集中している姿に感動。
- ・二年生は話している人の方を見て、しっかりと話を聞くことができている。
- ・三年生の英語授業では、各グループが店を出し、楽しみながら英語を学んでいた。
- ・六年生の体育の授業では、過去の映像を活用して振り返り、次回に生かす工夫がされていた。
- ・支援学級の子どもたちが優しく、家庭科で作った料理を分けてくれるなど心温まる行動。
- ・加納小学校の子どもたちは、「美しい心」をもっていると感じた。

大竹委員：

- ・春先の授業参観で校長先生から方針について説明を受けた。
- ・過去の実験経験では、一方通行の授業や知識技能の習得が主流だった。現在の授業では、論理的思考や道徳的実践力を重視し、子どもが主体的に学ぶ形式に変わっている。
- ・英語の授業も、単語や文法の暗記ではなく、実際に使えるよう工夫されている。
- ・お店屋さん活動などで、先生たちの創意工夫や研究が感じられる。
- ・自身も高校で教員をしており、小学校の教育現場を見て反省し、自身の指導について考えさせられた。

高木委員：

- ・授業を見て、子どもたちが明るく元気であることを感じた。
- ・タブレットの使い方が上手であると感じた。
- ・椅子に名前のフリガナがあるのは良い工夫と感じた。
- ・加納の和傘や城を広める活動が地域として嬉しい。
- ・自転車のルールについては、来年から16歳以上に罰金が科される。加納中学校では生徒会が交差点で指導を行っている。小学生も交通ルールをしっかり覚えることが望ましい。
- ・交通事故を防ぐために、十分な予防策が重要であると感じた。

小森委員：

- ・授業が非常に素晴らしい。
- ・加納小学校はチャイム廃止や通知表の改善など最先端の教育を行っている。
- ・地元への誇りを持たせる活動が評価されている。
- ・自然科学の観点で子ども達に自然の豊かさを伝える試みを行っている。望遠鏡で昼間の月を観察する機会を設けた。子ども達の興味を引き学びを深めてほしい。
- ・加納幼稚園でのアゲハチョウの飼育が最優秀賞を獲得、生き物の飼育を通じて命の尊さを

学ぶ活動が素晴らしい。自然界の循環を学ぶ機会を提供、生き物を通じて自然を理解することが重要。地域の豊かさに気づき、日常の中で学びを深めることの重要性を感じている。

村山委員：

- ・校内環境が整えられており、子ども達が良い環境の中で学んでいると感じた。
- ・各学年が目標を持って学習に取り組んでおり、特に低学年は教師が目標をもたせて学びを促している。
- ・授業では個人、グループ、全体で学び合っている様子が見られた。
- ・教師の字がきれいであり、それも重要な学習環境の一部であると感じた。
- ・二年生の作文など、子ども達の授業や作品が素晴らしかった。
- ・中学でも子ども達が活躍できる授業を提供する必要性を感じた。
- ・受容と毅然の難しさ、特に毅然とした指導の難しさを感じ、バランスを重視したいと考えた。
- ・加納藩についてもっと学ぶ機会を増やしたいが、茜部の子どもが多いため、小学校に任せたいという思いがある。

藤井委員：

- ・素晴らしい教育環境で子ども達が学んでいると感じた。
- ・岩佐校長の講義は目的意識があり、新しさだけでなく不易と流行を重視する。教育は時代の経済要求に応じた人材育成が重要である。校長が先生方に自主性と自分事として教育を考えることを促している。
- ・授業形態や教室の使い方に先生の明確な目的が見える。
- ・一年生の授業スタイルが、子ども達の心情や集中を促している。
- ・地域文化を取り入れた授業で、子ども達が地域への誇りを持つことを促進している。
- ・小学校の学びが実体験として地域理解を深めることの重要性を感じた。
- ・子ども達が元気で明るいのは「やりたい」がある授業の成果である。
- ・小学校の協力によって年中が実践的なプロジェクトを行えていることに感謝している。
- ・トイレ環境の改善を同施設として共に要望していきたい。

川田会長：

- ・子ども達が楽しく授業をしている様子が印象的だった。
- ・学校が楽しい場所だと子ども達に認識してもらえることが重要。
- ・授業内容の変化に対応できない子どもが出ないか心配している。
- ・中学校で不登校が増える傾向があり、その対応も重視してほしい。
- ・遅い時間に保護者と一緒に歩く子ども達も含め、取り残されないよう配慮を求めている。

(2) 加納小学校支援推進委員会の活動等について (教頭)

協議について 賛成 11名 可決

5 校長挨拶